



三重県中央農業改良普及センター
令和 8 年 3 月
VER. 1.2

ニホンナシにおける天敵を活用した ハダニ類対策マニュアル

はじめに

近年、夏季の極端な高温乾燥が続き、ハダニ類対策に苦慮している産地が多くなってきています。一部産地ではダニ剤の感受性低下が疑われる事例も発生しており、ダニ剤だけに頼らないハダニ類対策方法を検討する必要が出てきました。

そこで、国の事業(グリーンな栽培体系への転換サポート事業、グリーンな栽培体系加速化事業)を活用し、ハダニ類の天敵であるカブリダニ類(土着天敵+天敵製剤(ミヤコバンカー®))を活用した栽培体系の実証に取り組みました。

本マニュアルは、実証で得られた成果をもとに、天敵を活用したハダニ類対策に取り組むニホンナシ生産者が参考とできる内容をまとめました。

天敵活用体系を検討する前に

天敵を活用するにはいくつか留意しなければいけない点があります。今までのニホンナシ栽培にはない考え方をする部分がありますので、事前に本マニュアルを確認の上導入するようにしてください。

導入するにあたって

天敵活用の効果 天敵活用体系はハダニ類による被害をゼロにするものではありません。しかし天敵がいることでハダニ類の増殖が緩やかになり、対策の判断ができる猶予が生まれます。被害の早期発見と天敵の発生把握のため、園地の観察をこまめに行うことが大事です。天敵が十分いる場合は対処が不要な場合もあります。

防除暦の検討 ニホンナシ栽培で使用する農薬の中には天敵に対して影響を与えるものがあります。殺虫剤が主ですが一部殺菌剤でも気を付けなければならないものがあるので、散布の可否や散布後影響が残る期間について事前に情報を収集しておく必要があります。

導入したら

下草管理 土着天敵を有効に活用するため、5月から9月の間は草生栽培を行います。株元の除草は避けて放任気味に、通路はくるぶし程度の草丈を維持するよう意識しましょう。極端な除草はハダニ類の樹上への移行を助長するので注意が必要です。

樹上のハダニ類・カブリダニ類の観察 ハダニ類やカブリダニ類がいる場合はナシの葉裏をよく見ると確認できます。園をよく見回り、葉の様子を観察してみましょう。徒長枝や防除薬液のかかりにくそうなところなど、色が褪せたような葉があればハダニ類がいる可能性が高いです。ハダニ類が確認されても、天敵が確認できれば即時のダニ剤散布は不要です。

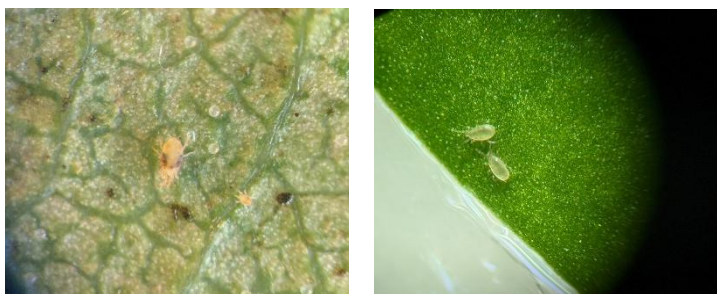


写真 ナミハダニ(左)と天敵の1種ミヤコカブリダニ(右)

ダニ剤の散布 天敵活用体系を導入してもダニ剤の散布が必要な場面があります。梅雨明け前後はハダニ類の急増に注意が必要です。ハダニ類の被害が広がっているにも関わらず天敵が確認できない場合や、天敵の数に対してハダニ類の数が多すぎる場合はダニ剤の散布を検討します(レスキュー防除)。また、天敵製剤を設置する場合は、設置前後にダニ剤を散布すると安定した効果が見込めます。ダニ剤の選択にあたっては、シーズン終盤を除いて天敵影響の小さいものを選びます。部分的な被害ならスポット散布を行うなど、被害状況によって散布方法を変えると良いでしょう。

天敵製剤の使用 ハダニ類が増殖する前に天敵製剤を設置すると被害抑制効果が高まります。ミヤコバンカー®は設置から天敵が働き出すまでに2週間程度のラグがあるので、設置時期が遅くならないよう注意が必要です。設置の際はダニ剤を散布し、ハダニ類の密度を下げておくことが被害抑制のキーポイントです。なお、6月下旬に設置した場合、初期のハダニ類の増殖が抑えきれない事例がありました。

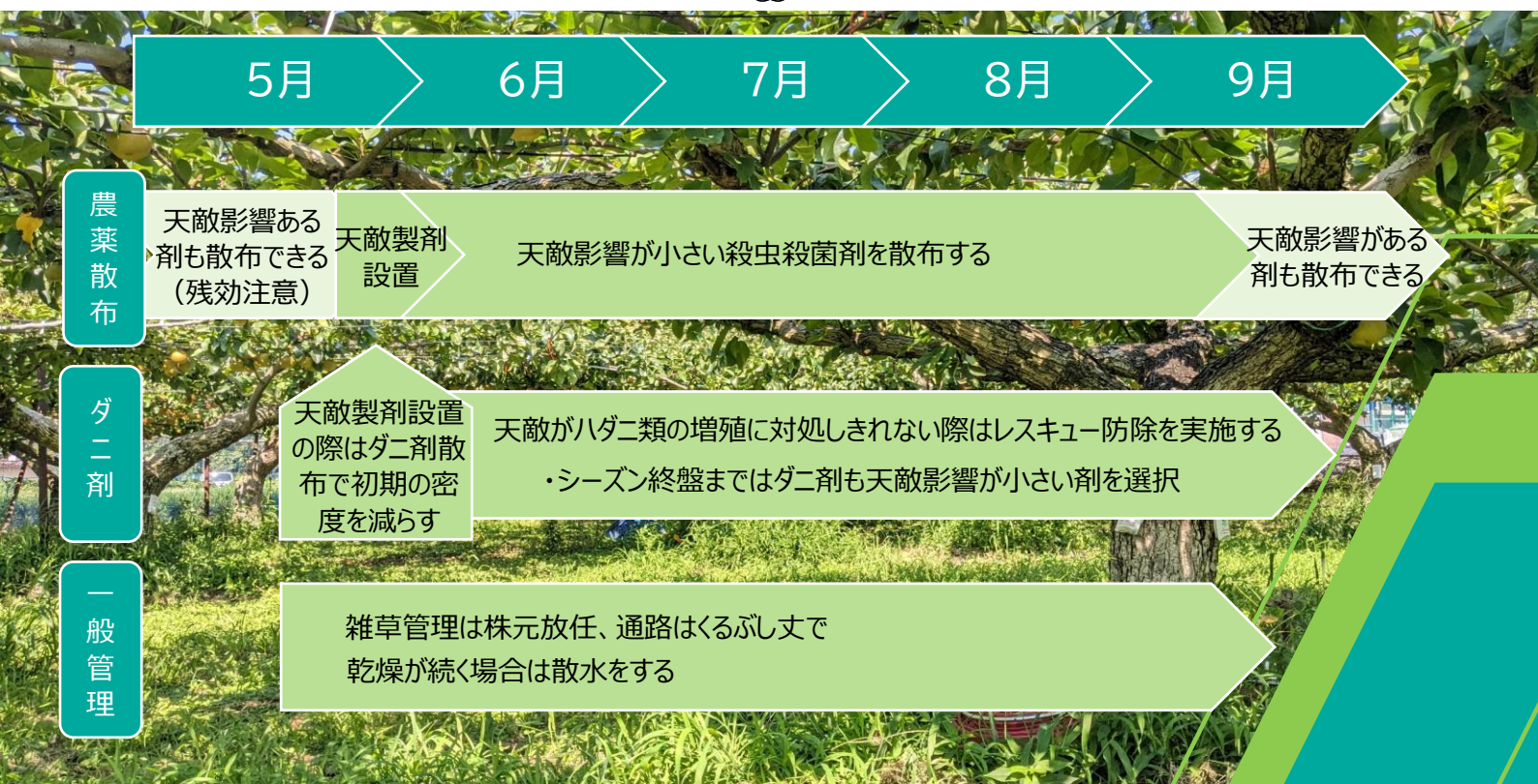


写真 ミヤコバンカー®の組み立て風景

天敵に上手に働いてもらうために 天敵の増殖にはある程度の湿度が必要です。高温乾燥が続く場合は、樹や果実のためにも灌水を実施するようにしましょう。

一般の殺虫殺菌剤散布 6月から9月は天敵影響の小さい農薬を散布します。5月までは影響のある剤を使うこともできますが、散布後しばらく影響が残るものもあるので注意が必要です。ハダニ類が増えても来年度に影響が出なくなるシーズン終盤からは天敵影響のある剤を使用できます。

軽度な被害の許容・観察・適切な対処



影響が
小さい

影響が小さい
(連続散布は
避ける)

影響が
少しある

影響が
ある

殺菌剤

天敵影響が小さいものが多い

銅

DMI, QoI, SDHI
など

スコア
トリフミン
スクレア
ストロビー
ファンタジスタ
カナメ など

チウラム

トレノックス
(チオノック)

硫黄

マンゼブ

ジマンダイセン

ポリオキシシン

チオファネート
メチル

トップジンM

ベノミル

ベンレート

殺虫剤

天敵影響が様々で、系統が同じでも影響が異なる

ネオニコ

スタークル
ベストガード など

ジアミド

エクシレル
サムコル
フェニックス など

IGR
など

アプロード
トランスフォーム
コルト
ウララ など

ネオニコ

モスピラン

ネオニコ

ダントツ

ネオニコ

アドマイヤー
など

合ピレ

アディオン
テルスター など

有機リン

スミチオン
ダイアジノン など

その他

オリオン
コテツ
ハチハチ
モベント など

ダニ剤

スターマイト
カネマイト
ダニオーテ
ダニコング
ダニサラバ
ニッソラン
マイトコーネ

ダブルフェース

気門封鎖剤

アカリタッチ
フーモン など

ダニゲッター
ダニトロン

サンマイト
コロマイト
ダニメツ
バロック
メビウス

参考になる資料

○新・果樹のハダニ防除マニュアル-＜w 天＞防除体系-【第三版】

(https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/130513.html)

農研機構作成の天敵活用マニュアル。ハダニ類の解説から天敵導入のポイント、薬剤影響など幅広くかつ詳細に解説



○カブリダニ類への各種薬剤の影響表

(https://ibj.iskweb.co.jp/wp/wp-content/uploads/2026/04/banker_list.pdf)

石原バイオサイエンス株式会社作成の農薬影響表。各種農薬のカブリダニ類への影響について一覧で紹介



○農薬影響表 (https://www.arystalifescience.jp/product/product_index.php)

アリスタライフサイエンス株式会社作成の農薬影響表。各種天敵への農薬影響について一覧で紹介

